

本興寺だより

令和七年

三月

第二六七号

「彼岸とは、生死の此の岸より、苦海の蒼海を凌ぎ、菩提の彼岸に到る時節なり」 (宗祖 彼岸鈔)

春が間近とはいへ、久しぶりの雪の多さに除雪に追われる毎日です。除雪に大変な反面、新雪の白い雪をじっくり見ると、その美しさに時として心が洗われることがあります。

雪は、水が凍りの結晶となって降るもの。雪にはすずぎ清める意味があります。「雪辱(せつじよく)を果たす」とは、「辱(はじ)を雪(すす)ぐ」こと。前に受けた辱を洗い流すことです。

江本勝という方が以前に、水が語りかけてくるメッセージを多くの人に知ってもらいたいと、二十年以上にわたり撮影した水の結晶の写真集を出版されてきました。水の結晶は六角形になりますが、同じ条件の水をそれぞれ容器に入れ、片方には例えば「有り難う」と、愛情に満ちた言葉を書いた水は、どれも美しい完全な六角形の結晶となり、一方罵声や嫌悪の言葉が発したり書いたりした水は、どれも六角形の結晶が完璧ではなく崩れているということを、沢山の事例



を元に示しています。水は単にただの水ではないという事です。

本当かな?と思いますが、森羅万象には全て神仏の何がしかの意識が働いていることを説かれていることを考えれば、自然界から私達に、多くの気付きのメッセージがきていても不思議ではないのです。

地球の表面の七割は水です。私達の体の七割は水分です。水はあらゆる命を育む源です。

「水は法円の器に随う」ということわざがあります。人は交友関係や環境次第で良くも悪くもなります。水は容器の形によって□にも○にもなるように。流れる水は腐らないように、心のわだかまりを何時までも溜めて置かないで嫌な事は、水に流す」ことも必要です。

一番大事な水に、命の生き方、生かし方が示唆されているのです。

仏様は、自然界にはあらゆる水がある。海、川、池、たまり水など。どの水も手を洗えば汚れがそれなりに落ちる。しかしそれぞれの水の違いがあるのだと。

仏様の説かれた沢山の教えも、水が垢を落とすように皆それなりの功德があるが違いもあるのだと。

心の汚れ、過去・現在・未来にわたる三世の魂の穢れを本当に清め得るのは法華経の教えであると示されています。

イギリスの世界的な理論物理学者で七年前に亡くなったホーキング博士は、二十代から、脳からの指令

を筋肉に伝える運動ニューロンが死滅し、筋萎縮性側索硬化症(ALS)を患い、車いすで、言葉が発することが出来ないで、口にペンを加え、タッチパネルにペンを触れることでコミュニケーションをとり、量子力学や宇宙論において多大な功績を残されたのです。その博士が、「私の身体は動かない。でも私の意識はむしろ冴えわたっている。だとすれば意識は一体どこにあるのだろうか?。死と向き合う日々の中で、意識は脳や身体とは別の何かなのではないか?」

と考え長年の研究の末、「意識は消滅しないそれは宇宙の法則だ」と言われ、世界中の物理学者の常識を覆したと云われます。

従来の物理学では、意識は脳が生み出す現象に過ぎず、脳が止まれば意識も消滅すると考えられていたからです。もし意識が残れば魂も残るという事なのか?と論争になったとも言われます。

最近では、量子力学の方面から、学者が魂の不滅を証明している人が国内外を問わず何人もでてきているのは注目すべきことです。

宇宙にはあらゆる意識を集める場があるのではないかと。パソコンでいえば、情報を統括保管する「クラウド」のように。例えば自分のパソコンが壊れても(死)、別のパソコンでログインすれば意識(情報)が取り出せるのでは?それが霊界との通信では、との研究もあります。

仏様は二千年前から魂の世界の真実(量子力学によ



つて証明されつつある世界)を説いておられるのです。今月は春のお彼岸の月です。彼岸とは、尽きることのない心の迷いや苦しみを満ちた此の世の現実の世界(此岸)から、仏様の世界、悟りの平安な境地である彼岸に到ることを意味します。そのための修行を六波羅蜜(ろくはらみつ)と教えています。

- ① 十七日 布施―進んで善根を積むほどよし。
- ② 十八日 持戒―心を清く保つ戒め。
- ③ 十九日 忍辱―素直な心を怠りなく保つ我慢。
- ④ 二十日お中日 ご先祖供養、お題目の修行
- ⑤ 二十一日精進―努力を重ねて向上を図る励み。
- ⑥ 二十二日禅定―心静かに自己を省みる落ち着き。
- ⑦ 二十三日智慧―ものごとの本当の姿・意味を知る賢さ。これらの六つを彼岸の一週間毎日一つずつ己を見つめて行い、彼岸の中日はこの気持ちを持ってご先祖に感謝し供養の誠をささげることが大切だと云われます。彼岸とはご先祖の御霊と共感できるあの世でもあり、この世でもあります。

彼岸の中日は昼と夜の長さが等しくなります。本来も闇も、苦も楽も等しく備わって身近にあることを忘れてはいけません。明るさだけを、楽しさだけを、好きなことだけを求める生き方は苦を増すのだと云われます。現実の目に見える世界も、目に見えない魂の世界も五〇―五〇で存在しているのに気づきなさいと教えています。ご供養は、亡き御霊の存在を今も共に生きていることを実感できる深い気持ちが必要なのです。合掌 本興寺住職 中 谷 聰 秀